第５講　荘園公領制と武士

PART 2 武士団の形成と反乱

Chapter 1　武士団の形成と皇族・貴族による利用

目標
各地に武士団が発生したのはなぜだろう？
大武士団の成り立ちについて知ろう。

1　武士団の形成

①**武士〔兵〕**登場の背景（９世紀後半～10 世紀）

律令制の動揺・崩壊に伴い地方の治安は悪化。

また，徴税請負人化した国司も激しい圧迫・徴税攻勢をかけた。

※自衛のため武装する地方豪族・有力農民が増加。

②小武士団の形成

A　小武士団の形成

治安が悪化する中で，地方豪族・有力農民が**家子**などの一族や**郎党**〔郎等・郎従〕などの従者，下人・所従などを率いて〔1　　　　〕を形成。

互いに争いを繰り返し，時には国司にも反抗。

B　国司方の小武士団

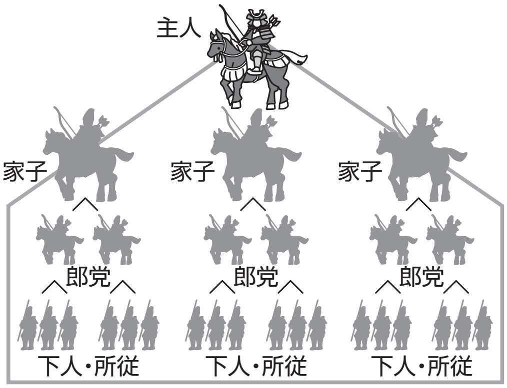
荘園領主との対立のために国司の子弟や在庁官人たちが国衙に組織され，武士団を形成（＝国侍・館侍）。

③大武士団の形成

関東・東北地方などの辺境では，**軍事貴族〔兵の家〕**が受領の任期後も土着。館を築き一族や地域の結びつきを強め，在庁官人や在地領主などの小武士団を統合・連合し大武士団を形成し〔2　　　　〕となる。

A　〔3　　　　〕

９世紀末の**平高望**〔高望王〕が祖。



武士団のしくみ

B　〔4　　　　　　　　　〕

10 世紀半ばの**源経基**〔経基王〕が祖。

C　**奥州藤原氏**

11 世紀後半の**藤原清衡**（もと清原清衡）が祖。

2　皇族・貴族による利用

中央の皇族・貴族は，死や血というケガレにつながる武芸を避けるようになり，地方武士たちを積極的に活用していった。

①皇族・貴族の警護

〔5　　〕**〔家人〕**

※院政期になると院・摂関家の侍として京で活動する武士が増え（＝京武者），桓武平氏・清和源氏の一族が代表的な存在となった。

②朝廷の警護

滝口の武者（宇多天皇）

③院の警護

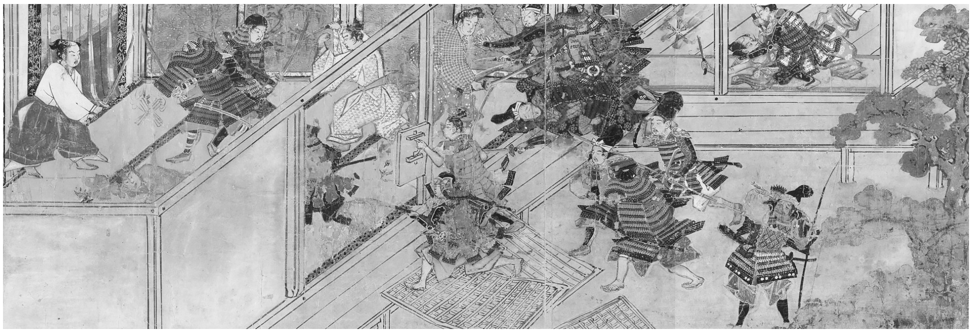
北面の武士（白河上皇）・西面の武士（後鳥羽上皇）

④中央の治安維持

検非違使

⑤地方の治安維持

押領使・追捕使など



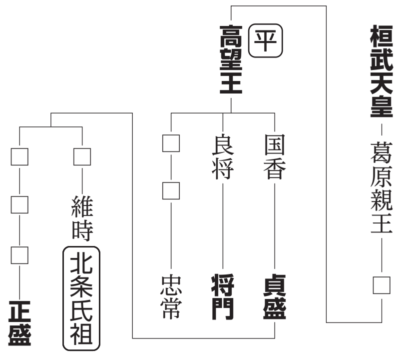
武士の争い

まとめ　律令制の動揺・崩壊に伴い地方の治安が悪化し，各地に武士が登場した。
軍事貴族が一族や地域の結びつきを強め，
地方の小武士団を統合・連合し大武士団を形成して棟梁となった。

Chapter２　地方武士の反乱

目標
平将門と藤原純友の共通点を知ろう。
承平・天慶の乱により何が明らかになったか知ろう。

1　平将門の乱（939～940年）



平氏系図

①桓武平氏一族の内紛

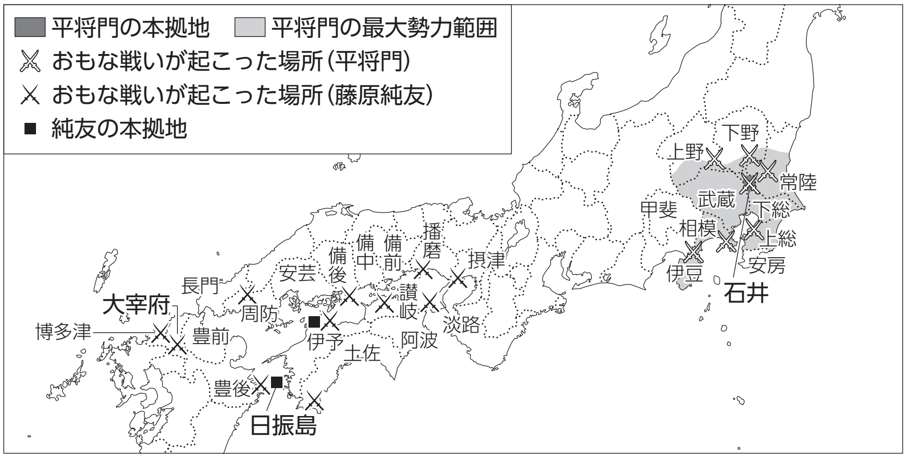
935 年以降，鎮守府将軍平良将の遺領をめぐる一族の内紛が起こり，良将の子で，京から**関東**に戻ってきていた〔1　　　　　　　　〕が，叔父の国香を殺害して勝利。

②朝廷への反乱（939 年～）

一族と争いを繰り返す中，下総国猿島を根拠地に勢力を拡大していた平将門が，常陸・下野・上野の国府を攻め落として「**新皇**」と自称し，関東８カ国の大半を支配。

③反乱の平定（940 年）

征東大将軍藤原忠文の下向前に，**平貞盛**（国香の子）と〔2　　　　　　　　〕（**下野国押領使**）により鎮圧される。



平将門の乱と藤原純友の乱

将門の首を運ぶ藤原秀郷の隊列

2　藤原純友の乱（939〜941年）

①〔3　　　　　　　〕の出自

　もと伊予国の国司の３番手（＝**伊予掾**）であったが土着。

　討伐にあたっていた〔4　　　　　　　〕の海賊と結ぶ。

②朝廷への反乱（939 年〜）

　伊予国日振島を根拠地とし，伊予・讃岐の国府を襲い，大宰府を攻め落とす。

③反乱の平定（941 年）

　征西大将軍藤原忠文の下向前に，

　〔5　　　　　　〕（清和源氏の祖）と**小野好古（追捕使）**により鎮圧される。

3　承平・天慶の乱（935〜941年）の意義

平将門の内紛から藤原純友の乱を合わせ，**承平・天慶の乱**ともいう。

中央の無力さが露呈するとともに，地方武士の実力を確認する契機となった。

まとめ

平将門も藤原純友も，京での官人生活を経験していた。

承平・天慶の乱により，中央の無力さと地方武士の実力が確認された。

第５講　PART２　確認問題

1　関東・東北地方などの辺境で，受領の任期後も土着した軍事貴族を何というか。

①　兵の家　　②　健児
③　郎党　　④　家子

2　清和源氏の祖となったのはだれか。

①　源満仲　　②　源頼光
③　源頼信　　④　源経基

3　朝廷の警護にあたったのはどれか。

①　北面の武士　　②　西面の武士
③　滝口の武者　　④　京武者

4　中央の治安維持を任務としたのはどれか。

①　追捕使　　②　押領使
③　検田使　　④　検非違使

5　常陸・下野・上野の国府を攻め落として「新皇」と自称し，
関東８カ国の大半を支配したのはだれか。

①　平将門　　②　平国香
③　平良将　　④　平貞盛

6 5の乱を 940 年に平定した下野国の押領使はだれか。

① 藤原道長　② 藤原秀郷
③ 藤原頼通　④ 藤原忠文

7 939 年に反乱を起こした藤原純友は何という国のもと国司であったか。

① 安芸国　② 伊予国
③ 備前国　④ 讃岐国

8 藤原純友の乱を 941 年に平定したのはだれか。

① 源頼光　② 源経基
③ 源頼信　④ 源満仲

第５講　PART２　確認問題 解答

1 解答：①　**軍事貴族〔兵の家〕**は，館を築いて一族や地域との結びつきを強め，大武士団を形成し**棟梁**となった。

2 解答：④　**清和源氏**は，清和天皇の孫・**源経基**（経基王）が，源の姓を賜ったときから始まる家系である。

3 解答：③　①の**北面の武士**と②の西面の武士は院の警護にあたった。④の京武者は，院政期に院・摂関家の侍として京で活動した武士。

4 解答：④　①の**追捕使**と③の**押領使**は，地方の治安維持を任務とした。

5 解答：①　②の平国香は平将門の叔父で，平将門に殺害された。③の平良将は平将門の父。④の平貞盛は平国香の子で，平将門の乱を平定した。

6 解答：②　**藤原秀郷**（下野国押領使）と**平貞盛**（国香の子）が，征東大将軍藤原忠文の下向前に鎮圧した。

7 解答：②　**藤原純友**は，もと伊予国の国司の３番手（＝伊予掾）であったが，伊予・讃岐の国府を襲い，大宰府を攻め落とした。

8 解答：②　**源経基**（清和源氏の祖）と**小野好古**（追捕使）が，征西大将軍藤原忠文の下向前に鎮圧した。